

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 これまでの検討の経過について

令和元年9月6日付で設置された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」は、9月25日に第一回会議を開催した後、これまで3回の会議を開催し、検討を行ってきた。これまでに検討を行った内容は以下2.のとおり。今後も、これらの内容を含め、＜参考＞に掲げる事項等について、引き続き検討を進める予定。

1. 開催状況

(1) 第1回：令和元年9月25日（水）10：00～12：30

- ・新しい時代の特別支援教育の在り方について自由討議

(2) 第2回：同 10月16日（水）15：30～18：15

- ・特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方についてヒアリング及び意見交換

(3) 第3回：同 11月8日（金）15：00～18：00

- ・障害のある子供たちへの指導におけるICTの活用についてヒアリング及び意見交換

2. これまでの主な議論の概要

(1) 特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方について

- 特別支援教育に携わる教員に共通して求められる基盤的な資質や必要な専門性等について、自立活動などの観点も踏まえどのように整理すべきか。その際、教員養成段階における特別支援教育概論の指導状況などについて現状の把握が必要ではないか。
- 発達障害など多様化する児童生徒の特性に応じた指導や、障害のある子供とない子供が共に学ぶ場の進展などの観点を踏まえ、特別支援学級や通級による指導を担う教員の専門性を担保するための方策についてどのように考えていくべきか。
- 重複障害児への対応の観点から、複数の障害種を併せ有する場合の指導方法等に関する専門性をどのように確保していくべきか。
- 教員の専門性を担保するための方策として、例えば「履修証明」のような仕組みや免許等についてどのように考えるべきか。
- 専門性の担保に向けて、現職教員の研修の在り方や、小中学校等で特別支援教育を担当する教員のサポート体制の在り方、人事交流の仕組み、特別支援学校のセンター的機能等についてどのように考えていくべきか。

(2) 障害のある子供たちへの指導におけるICTの活用について

- 障害のある子供たちの学習ツールとして特に ICT は便利であり、大学等の養成段階において子供の実態や活用事例、実演を取り入れているようなケースは好事例となるのではないか。
- 障害のある子供については、早い段階から自分の体の一部のように ICT 機器を使っている例もあり、情報保障の観点からもその活用は効果的ではないか。
- ICT 機器の整備により、例えば初めて指導を担う場合であっても効果的な教材の活用や成果のある指導が可能となるなど、特別支援学級や通級による指導内容の充実に資する。
- 病気療養児にとって、ICT を活用した遠隔授業は、学習を途切れさせないということだけでなく学校の友人関係といった面でも病気に立ち向かう大きなモチベーションとなる。障害のある子供たちの ICT 利用については、このような意義をもつことも認識すべき。
- 障害のある子供の ICT 利用について、定期試験や入試等における対応など、時代やテクノロジーの進歩に伴った配慮の在り方を考えていくことが必要ではないか。
- 教育の情報化が進む中で、特別支援教育においても、指導内容の充実・教師の負担軽減・校務改善等の観点から足並みをそろえて着実に対応すべき。特別支援教育における指導の充実の観点からは、個別の教育支援計画や指導計画など、子供の状況やアセスメント結果を関係者間で共有し、指導に生かすことが必要。

<参考>有識者会議における主な検討事項(例)

- 新しい時代の特別支援教育の目指す方向性・ビジョン
- 特別支援教育を担う教員の専門性の整理と養成の在り方
- 障害のある子供たちへの指導の充実
- 小・中・高等学校及び特別支援学校における特別支援教育の枠組み
- 幼稚園・高等学校段階における学びの場の在り方
- 切れ目ない支援の推進に向けた教育と医療、福祉、家庭の連携 等